

# デッチ上げを許すな！職場復帰を勝ち取ろう！

## 蒲郡駅事件第1回公判報告集会

本日、名古屋地方裁判所において、「つくられた蒲郡駅事件」第1回公判が開廷された。加藤誠二さんは、検察の起訴事実を全面的に否認し、「窃盗事件」をデッチ上げたJR東海及び愛知県警・公安警察に対し満腔の怒りをもって糾弾する意見陳述を正々堂々に行った。さらに、なぜ会社・権力は、デッチ上げ「窃盗事件」を企てるに至ったのか、その狙いと根拠を赤裸々に暴露した。

昨年7月13日に突如強行された大弾圧・不当家宅捜索から10ヶ月、そして、忘れもしない9月27日不当解雇から8ヶ月が経過した。この間、我々は11.4解雇撤回ストライキを頂点に、全組合員が一丸となって、出来る全ての闘いを展開し反撃してきた。しかし、名古屋地検は、不当にも3月19日在宅起訴した。「窃盗」の事実など存在しないことは、解雇撤回を求めた民事裁判でも明らかになりつつある。会社側は、何ら証拠を提示できないのだ。ありもしないことをデッチ上げるのに汲々としているのだ。にもかかわらず、検察が起訴に踏み切ったのは、そこに警察・検察＝国家権力としての意図が貫徹されているからにはほかならない。

JR総連に対する弾圧は、この7年間で実に家宅捜索180箇所、6000点以上の押収物など、その攻撃は悪辣・熾烈さを極めた。東京駅事件暴力行為デッチ上げ、美世志会7名に対する「強要罪」デッチ上げ、「業務上横領事件」デッチ上げなど、我々を反社会集団に仕立て上げるための攻撃は頂点に達した。さらに『週刊現代』による24週にも及ぶテロリストキャンペーンを大々的に展開することで、一挙に組織破壊を貫徹することが目論まれてきたのだ。まさに、蒲郡駅事件も、これら一連の闘う労働組合破壊という政治的意図を持った弾圧であることは誰の目から見ても明らか。「窃盗事件」であるにもかかわらず、公安警察がその最先頭で指揮を執ることにそのことは端的に示されている。

しかし、我々は、このようなかつてない大弾圧を前に黙っていたわけではない。JR総連に結集する全国の仲間たちの闘いにより、これら悪辣な政治弾圧を粉砕し当面の勝利を勝ち取ってきた。「業務上横領事件」不起訴決定、美世志会解雇無効仮処分申立勝利など権力の意図を木端微塵に打ち砕いてきたのだ。だからこそ、国家権力は、憎悪をむき出しに加藤誠二さんを何がなんでも、起訴することを通じて組織破壊の新たな切り口にしようと必死なのだ。

結集された全ての組合員の皆さん！我々は、このような会社・権力が一体となった組織破壊攻撃とその狙いを断固粉砕し、デッチ上げを許さず、加藤誠二さんの職場復帰を目指して全力で奮闘しなければならない。そのために、全組合員のさらなる団結を強化し、職場生産点から「規律と忠誠心」「命令と服従」の強権的労務管理と立ち向かい、そして法廷内外を埋め尽くす傍聴の結集で、引き続き公判闘争を断固闘い抜こうではないか！今報告集会は、その新たな闘いの出発点である。勝利を我が手中に！共に頑張ろう！

2008年5月27日  
蒲郡駅事件第1回公判報告集会